

エールナチュラー日本語学園

自己点検及び自己評価の実施について

1 根拠

日本語教育機関の告示基準第1条第1項第18号に規定に基づき、教育水準の向上と適切な業務運営を継続させるため、本校において「自己点検・自己評価の実施要綱」を定めて実施する。

2 実施主体

「学校評価委員会」（以下、「委員会」という。）を設置し、委員会が実施主体としてこれを実施する。

3 委員会の構成員

校長を委員長として、以下常勤の全教職員で構成する。

4 点検・評価項目

法務省による「日本語教育機関の告示基準」を参考とし、別紙「自己点検及び自己評価項目」に沿って点検・評価を行う。

5 評価方法

項目ごとに下記の4段階で評価したうえで、A又はB評価となった項目については、その根拠、実績を記載する。また、C又はD評価となった項目についてはその原因及び具体的な改善策を記述方式にて記載する。

【4段階評価】

A：達成されている。（達成率90%以上）

B：ほぼ達成されているが、不十分なところがあり改善に取り組んでいる。

（達成率70%以上）

C：達成に向けて努力している。（達成率50%以上）

D：達成されていない。／必要性に気づいていなかった。（達成率50%未満）

6 実施時期

毎年、年度末の3月末日に実施する。

7 評価報告書の公表

自己評価報告書については校長決済とし、決済後、本校の設置者である株式会社ユタカへ提出した上で、毎年7月末日までに当校ホームページにて評価報告書を公表する。

自己点検及び自己評価項目

1 教育理念・目標・育成人材像（全教職員）

- 1-1 理念・目標・育成人材像は定められているか。 【 A・B・C・D 】
- 1-2 理念・目標が教職員、学生に周知されているか。 【 A・B・C・D 】
- 1-3 学校の特色は明確に現れているか。 【 A・B・C・D 】
- 1-4 理念に基づく教育が行われているか。 【 A・B・C・D 】

【A 又は B 評価となった項目についてその根拠、実績】

.....
学校設立に至る理念を明確にし、パンフレット、ホームページに記している。受験にあたっては、エージェントを通じて入学志願者に周知し、サインをもらっている。学校での生活は、設立理念に基づいて、厳しくもあり、優しく学生を支援する体制で臨めている。
.....

【C 又は D 評価となった項目についての具体的な改善策】

.....

2 学校運営（教員を除く全職員）

- 2-1 運営方針や事業計画が定められているか。 【 A・B・C・D 】
- 2-2 運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか。 【 A・B・C・D 】
- 2-3 設置者・設置代表者及び経営担当役員は告示で定められた要件を満たしているか。 【 A・B・C・D 】
- 2-4 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか。 【 A・B・C・D 】
- 2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。 【 A・B・C・D 】
- 2-6 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか。 【 A・B・C・D 】
- 2-7 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう告示に基づき整備されているか。 【 A・B・C・D 】

【A 又は B 評価となった項目についてその根拠、実績】

.....
設置代表者及び経営担当役員と校長・教務主任等との合同会議を月に 1 回開催し、運営方針・事業計画の進捗状況の報告と当面の具体的方針について意見交換を行っている。学校教職員には、各人にパソコンと電話が与えられ、業務の効率化が十分進められている。また、教室に設置されているパソコンを含め、不具合時の修理を含め、人員配置もすぐ行われるよう経営担当者が配慮している。施設・設備は、告示基準に基づき新築・整備されている。
.....

【C 又は D 評価となった項目についての具体的な改善策】

.....

.....

3 教職員（全教職員）

- 3-1 教育理念・目的が教職員間で共有されているか。 【 A・B・C・D 】
- 3-2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか。 【 A・B・C・D 】
- 3-3 教職員評価を行っているか。 【 A・B・C・D 】
- 3-4 学校長・教務主任及び教員は告示で定める要件を備えているか。 【 A・B・C・D 】
- 3-5 学校長・教務主任・専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限が明確に定められているか。 【 A・B・C・D 】

【A 又は B 評価となった項目についてその根拠、実績】

設立理念に基づき、日々学校運営がされている。日本で生きていくためには、厳しさとやさしさと
のバランスを保ちながら、語学習得と同時に自立を促している。教育の質の確保については、教務主
任が中心となり、授業技術の向上はもとよりカリキュラムの精選およびテスト問題などにも主体性
を發揮するとともに、新任講師への指導・助言も計画的に行っている。全教職員は告示基準で定めら
れている要件を備えている。全学生予定数100名という小規模校のため、職務内容および責任の
分業を図りつつも全員で学校運営を行っている。

【C 又は D 評価となった項目についての具体的な改善策】

4 事務体制（全教職員）

- 4-1 生活指導担当責任者及び入管事務担当者が特定され、それぞれの職務内容及び責任と権限が
明確に定められているか。 【 A・B・C・D 】
- 4-2 生活指導担当責任者及び入管事務担当者が学生及び教職員に周知されているか。 【 A・B・C・D 】
- 4-3 入国管理局より認められた申請取次者を配置しているか。 【 A・B・C・D 】

【A 又は B 評価となった項目についてその根拠、実績】

生活指導担当者、入管事務担当者および申請取次者はもとより寮生活支援者を配置している。
学生への注意事項や連絡事項など、メールはもとより、直接集めての対話を毎月実施している。
体調不具合の相談や欠席連絡もメールを通じて学生課に届くようになっており、学生数が少なく家
族的な雰囲気での運営ができている。

【C 又は D 評価となった項目についての具体的な改善策】

5 教育活動（全教職員）

- 5-1 教育理念に沿ったカリキュラムが体系的に編成されているか。 【 A · B · C · D 】
- 5-2 授業評価の実施・評価体制は整備されているか。 【 A · B · C · D 】
- 5-3 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか。 【 A · B · C · D 】
- 5-4 成績評価や修了認定は適切に行われているか。 【 A · B · C · D 】
- 5-5 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか。 【 A · B · C · D 】

【A 又は B 評価となった項目についてその根拠、実績】

教務主任を中心として、設立理念・目標に沿ったカリキュラムが体系的に編成されている。実現のためにも、資質を備えた教員の確保が必要であり、困難であったが充足しつつある。特に、授業の効率化に向けてITの活用は必要不可欠であり、ハード面では十分であり、ソフト面で逐次進めている。各種日本語試験には積極的に取り組んでいる。

【C 又は D 評価となった項目についての具体的な改善策】

6 教育成果（全教職員）

- 6-1 学生の日本語能力の向上が図られているか。 【 A · B · C · D 】
- 6-2 進学率及び就職率の向上が図られているか。 【 A · B · C · D 】
- 6-3 退学率の低減が図られているか。 【 A · B · C · D 】
- 6-4 卒業生や在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。 【 A · B · C · D 】

【A 又は B 評価となった項目についてその根拠、実績】

3月にスピーチコンテストを実施した。自己紹介から始まり、母国のこと、家族のこと、日本に来て思っていることなど、教職員だけでなく、学校経営担当者等多くの人の前で話をした。「短期間でよくここまで日本語で話ができるようになったね。」と評価をいただいた。各種日本語試験にはこれからも挑戦するが、まず、人前で話ができるようになり、第一段階は超えたと思われる。

進学セミナーを実施し、進学予定の5校の先生から、入学時の日本語能力と必要経費および卒業後の進路先等について話をいただいた。学生には良い刺激となった。

1時間目に教室に居ない学生には、すぐに家庭訪問で状況把握に努めている。必要に応じて医療機関への引率をしている。アルバイトの時間の届けと収入明細および通帳を毎月提出させ、現状把握とともに資格外活動の情報共有を図っている。退学率の低減とともに過度な活動への助言にもつながっている。卒業生はまだいない。

【C 又は D 評価となった項目についての具体的な改善策】

7 学生支援（全教職員）

- 7-1 進路・就職指導に対する体制は整備され、有効に機能しているか。 【 A · B · C · D 】
- 7-2 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか。 【 A · B · C · D 】
- 7-3 奨学金等の経済的支援が整備され、機能しているか。 【 A · B · C · D 】
- 7-4 学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う組織体制があり、有効に機能しているか。 【 A · B · C · D 】
- 7-5 学生の生活環境への支援が整備され、有効に機能しているか。 【 A · B · C · D 】
- 7-6 保護者や在日支援者と適切に連携しているか。 【 A · B · C · D 】
- 7-7 卒業生への支援体制は十分に行われているか。 【 A · B · C · D 】

【A 又は B 評価となった項目についてその根拠、実績】

前期後期の修了時に個人懇談を行い、進路相談・生活・健康相談を行っている。日常的に気になる学生には個別で懇談活動も実施している。

奨学金制度はないが、アルバイトを含め経済的支援体制は整えている。

健康診断は来日後すぐに全員実施をしている。また、体調不良で1時間目に遅刻や欠席時は、医療機関への引率を含め対処している。

日本で生活する基盤となる宿舎は、学校の管轄下で整備しており、近在住民との調整も図っている。

学校生活の状況は、エージェントを通じて母国の保護者に連絡している。

まだ、卒業生はいない。現在卒業に向けた進路指導の充実を図っている。

【C 又は D 評価となった項目についての具体的な改善策】

8 教育環境（全教職員）

- 8-1 教育機関として適切な位置環境にあるか。 【 A · B · C · D 】
- 8-2 校地・校舎の面積は告示に適合しているか。 【 A · B · C · D 】
- 8-3 教室・その他の施設は告示に適合しているか。 【 A · B · C · D 】
- 8-4 学校施設や設備は十分であるか。 【 A · B · C · D 】
- 8-5 学校施設や設備は安全に整備されているか。 【 A · B · C · D 】
- 8-6 図書や教材は適切で最新のものを取り入れているか。 【 A · B · C · D 】
- 8-7 学習効率を図るための環境整備がなされているか。 【 A · B · C · D 】

【A 又は B 評価となった項目についてその根拠、実績】

学校は住宅地域に建てられており、電車・バスなど交通の便が良い。告示基準に基づいて設置しており、現地調査通りでその後の変更はない。学習効率を図るための環境整備の一環として、各教室にパソコンとプロジェクターの設置をしている。また、各教室で行う、遅刻・欠席の状況把握が職員室で同時に把握できるシステムにより、学校にいない学生へのコンタクトがスムーズに行えている。

【C 又は D 評価となった項目についての具体的な改善策】

9 危機管理・安全（教員を除く全職員）

- 9-1 危機管理体制が整備されているか。 【 A · B · C · D 】
- 9-2 火災・地震・台風等の災害発生時の避難方法、避難場所を定めているか。 【 A · B · C · D 】
- 9-3 気象警報が発令された場合の措置を定めているか。 【 A · B · C · D 】
- 9-4 災害等に対する避難訓練を定期的実施しているか。 【 A · B · C · D 】
- 9-5 防災用品が備蓄されているか。 【 A · B · C · D 】
- 9-6 防火管理者、火元責任者等を選任しているか。 【 A · B · C · D 】

【A 又は B 評価となった項目についてその根拠、実績】

南海トラフ地震における大阪府のハザードマップを基本に避難対策を決めている。
また、大阪市立阿倍野防災センターに見学に行き、体験を含め、学生に知らせている。
備蓄食料が十分でなく、今後の課題である。対策的に行っているが、緊急事態の時にどのような
か未知数である。

【C 又は D 評価となった項目についての具体的な改善策】

10 学生募集と受け入れ（全教職員）

- 10-1 学生の受入方針は定められているか。 【 A · B · C · D 】
- 10-2 学生募集活動は適正に行われているか。 【 A · B · C · D 】
- 10-3 学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか。 【 A · B · C · D 】
- 10-4 入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか。 【 A · B · C · D 】
- 10-5 告示に基づいた適正な定員設定及び在籍者数になっているか。 【 A · B · C · D 】

【A 又は B 評価となった項目についてその根拠、実績】

本校の予定学生総数と多国籍となるよう配慮しながら、エージェントと話を進めている。エージェ
ントには、本校の特徴とともに、教育成果を伝え、学生からは聞いて了承した旨サインをもらってい
る。募集時の定員数は、基本受け入れ可能人数内で行っている。

【C 又は D 評価となった項目についての具体的な改善策】

1 1 財務（教員を除く全職員）

- 1 1 - 1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか。 【 A · B · C · D 】
- 1 1 - 2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか。 【 A · B · C · D 】
- 1 1 - 3 財務について会計監査は適正に行われているか。 【 A · B · C · D 】
- 1 1 - 4 財務情報公開の体制整備はできているか。 【 A · B · C · D 】

【A 又は B 評価となった項目についてその根拠、実績】

学校の財務基盤は安定している。予算・収支計画は予定通り進んでいる。財務および会計監査は適正に行われており、情報公開の体制整備はできている。

【C 又は D 評価となった項目についての具体的な改善策】

1 2 法令等の遵守（教員を除く全職員）

- 1 2 - 1 入管法を中心とした各種法令、告示及び設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 【 A · B · C · D 】
- 1 2 - 2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 【 A · B · C · D 】
- 1 2 - 3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 【 A · B · C · D 】
- 1 2 - 4 自己点検・自己評価を公開しているか。 【 A · B · C · D 】
- 1 2 - 5 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか。 【 A · B · C · D 】

【A 又は B 評価となった項目についてその根拠、実績】

個人情報保護のためのカギのかかる場所での保管を行うとともに、不要となった情報の適切な廃棄を心がけている。

自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めるとともに、本校設置者株式会社ユタカに提示し、7月末までに公開予定である。

関係省庁への定期報告を遅延なく実施している。

【C 又は D 評価となった項目についての具体的な改善策】

1 3 社会貢献（全教職員）

- 1 3 - 1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか。 【 A · B · C · D 】
- 1 3 - 2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。 【 A · B · C · D 】

【A 又は B 評価となった項目についてその根拠、実績】

コロナの影響もあり、教育資源や施設を活用した社会貢献には至っていないが、学生のボランティア活動等を通しての地域社会への貢献活動を支援する旨、積極的に連絡をしている。

【C 又は D 評価となった項目についての具体的な改善策】

1 4 総括（自由記述）（全教職員）

開校して1年であるが、教育活動の体制は固まってきた。

学生は積極的かつ能動的に学習に取り組んでいる。

本校の理念に基づく教育を進めるため、今後も精進する次第である。

ベテランの教員、新任の教員とそれぞれの利点をどのように生かしながら進めるかが課題である。

日本語の学校は、学生の日常生活への支援を含めて存在することを再認識している。

学生の親代わり、姉代わり、兄代わりとなり、学生の成長を支援する体制をつくる。

以上